
かながわみんなのSDGs

(業種順)

いのち・未来戦略本部室

建設業

1. 雨水タンクの設置で節水や時短につながった（株式会社春峰園）

取組の概要

本社事務所に雨どいから取水する雨水タンクを設置。雨が1度降れば200Lの雨水タンクがすぐ満杯に。現場作業や機械の洗浄等で多くの水を使用するので、貯まった水を使用することで、節水や貯水時間の短縮につながった。



取組を始めた動機・課題

現場作業において、200Lタンクの水を満杯にしてトラックで持っていくこともしばしば。水を貯めるにも時間がかかり、節水や水道料金の削減も考えたいと思っていたところ、雨水タンクの設置がSDGsにもつながると知り、取り組むことにした。

解決に向けた具体策と成果

雨水タンクにどのくらい水が貯まるものなのか想像がつかなかったが、機械置場として広い屋根と雨どいが既にあったので、設置を決めてしまえばすぐに取り組むことができた。多大な費用や大掛かりな工事が不要で、すぐに効果が見えたので従業員の理解も早かった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



27. 剪定ゴミを出さない庭づくり（アトピッコハウス株式会社）

取組の概要

大量に出る剪定ゴミ。ゴミステーションに出すにはガソリン代もい必要で、時間もかかる。敷地内で処分できれば経費が不要で、堆肥ができるため肥料も不要になった。



取組を始めた動機・課題

草木のコンポスト「バイオネスト」の存在を知ったが、堆肥化する過程で害虫や異臭が出ると近所からのクレームが出る。1年間様子を見たが、気になる変化はないだけでなく、想像以上に堆肥化が早く、堆肥を有効活用できていない。この方法は家庭でもできるので、広く進めていきたいが、ビジネスとして、どう活かせるのかが見えてこない。

解決に向けた具体策と成果

堆肥の販売には許可が必要で簡単には参入ができないため、地域通貨を利用して、地域の方に分ける取り組みを準備中。家と庭は繋がっているので、発信方法を工夫すれば、本業に活かせるのではないかと模索中。

該当するSDGs目標

(3つまで)



28. 建設業における女性活躍と技術の伝承（株式会社 富士防）

取組の概要

女性活躍の幅を広げ、技術の伝承を強化する事で、お客さまの満足度の向上と、性別・年齢に関係なく、働き・学ぶ場所を創設し、働きがいも向上。

2019年 神奈川なでしこ現場環境パトロール認定。

2020年 神奈川なでしこ現場コンシェルジュ認定。

2021年 神奈川県初の防水職業訓練校認定。



取組を始めた動機・課題

建設業は、男性中心の社会であり、女性活躍の幅が狭いとの思い込みと、職人離れも含めた技術の伝承が難しい問題点がありました。女性の潜在能力を開花いただき、技術の伝承が出来る仕組みづくりを構築、そして実現する事は、大変な苦勞を要しました。

解決に向けた具体策と成果

女性目線でのパトロールやコンシェルジュ、工事の研究を具体的に進めた結果、お客さまの満足度は向上し、性別・年齢・関係なく、学ぶ場所と働く場所の創設につながった。その成果が認められ、神奈川なでしこブランドでは、神奈川県初の2年連続認定。県下初の防水職業訓練校として認定いただきました。

該当するSDGs目標

(3つまで)



製造業

2. エコキャップ活動と廃プラゴミ袋使用（株式会社清光社）

取組の概要

弊社が清掃管理を行っているビルでの、ゴミ袋を廃プラ99%から製造している「FUROSHIKI」を採用し、今まで、分別していなかったペットボトルを3分別（ボトル、キャップ、ラベル）収集を開始した。



取組を始めた動機・課題

かながわプラごみゼロ宣言を行い、普段何気なく捨てているゴミに着目し、弊社が清掃管理しているビルでのビルオーナー、利用者に協力を求めた。

解決に向けた具体策と成果

各ゴミ置場にエコキャップ専用回収箱の設置、利用者に3分別のお願い掲示と資料を作成し、配布した。利用者も分別してくれるようになった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



3. レモンを捨てることなく使い切る（株式会社MURONE）

取組の概要

- ・日本人が大切にしてきた「もったいない」精神。
- ・食品廃棄物のレモンの搾りかすなどを原材料にし、食器などに加工。
- ・プラスチック製食器の代替えによる脱プラに貢献する。

取組を始めた動機・課題

- ・弊社が運営する飲食店にて廃棄するレモンの絞りかすを何かに使えないかと日頃悩んでいたところ、「100%食品廃棄物から作る新素材」技術を保有するFabula様と出会い、弊社の持つ金属加工技術との合わせ技で開発を始めた。

解決に向けた具体策と成果

- ・食器に耐えうる強度を確保するのに試行錯誤を繰り返した。その結果、レモン以外にコーヒー抽出かすや、セロリ、酒かすなどの材料でも成功。
- ・今後は新たな材料にチャレンジするとともに、大型化や耐久性UPに向け誠意開発を進め、商品化につなげたい。



該当するSDGs目標
(3つまで)



4. ファンケル 神奈川SDGs講座（株式会社ファンケル）

取組の概要

神奈川県内の子どもたちを対象に、単発講座・長期講座・夏休み講座の3つの講座を実施。商品の共同開発やワークショップなどの体験を通じて、SDGsの大切さを考えるキッカケを提供している。講師は当社社員を中心にこの活動に賛同した企業・団体が務める。■対象＝小学生、中学生、高校生



取組を始めた動機・課題

コロナ禍をきっかけに、地域社会との繋がり方の見直しを実施。2021年から「地域の子どもたちへ、地元の企業としてもっと何かできることはないだろうか。」と考え、神奈川県内の子どもたちへ「ファンケル 神奈川SDGs講座」を開始。世界的な重要テーマであるSDGsの推進および若年層への啓発活動を行っている。

解決に向けた具体策と成果

2021年度は、単発講座12回、長期講座9回、夏休み講座1回実施し、約2,250名の子どもたちへ講座を実施することができた。プラスチック問題や、食品ロスなどの講義を通し、「身近なことから自分も取り組めると思った」「未来のために、今自分の行動を変えることが大切だと感じた。」などの感想があがっている。

該当するSDGs目標
(3つまで)



5. 地域や従業員、地球環境に配慮し自然体で取り組んできた事が、まさにSDGsそのものであった。（ニッパ株式会社）

取組の概要

時代の変化に順応するため、地球環境や地域への貢献、働く従業員に配慮した多くの取組の結果、地域のイノベーション企業のモデルとして様々な方面から注目され、地域経済の発展に貢献。社内的にも、女性や障害者、高齢者など誰もが働きやすいノーマライゼーション環境を永きにわたり実現。



取組を始めた動機・課題

60年以上にわたり地域に根ざし支えられてきた企業として、「社員に長く働いてもらうには？」「時代の移り変わりの中で求められるニーズに対応するには？」を常に考え、ISO認証取得や働き方改革をはじめ様々な取組に挑戦する必要性を感じていた。

解決に向けた具体策と成果

生産に必要な製造仕様書（図面）をタブレット使用によりペーパーレス化。紙の使用量を20%削減、処分量を10%削減。さらに作業工程の見える化により異なる部門間での共有を可能に。社内外での様々な研修や多能職による柔軟な働き方、独自の評価制度などを採り入れ常に変化を続けてきた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



6. 地域課題を食で解決！東山田シェアご飯（株式会社スリーハイ）

取組の概要

当地域は横浜市都筑区に準工業地域です。工場から出る廃棄食材、隣接する農家の規格外の野菜、寄付食材などを使って「生きづらさ」を抱えている方々にお弁当を提供しています。お弁当は住民の方々が作っており、その名も「東山田シェアご飯」です。当社の工場カフェ「DEN」のキッチンで使って展開しています。



取組を始めた動機・課題

青葉区でシェアご飯を既に取り組んでいる方の話を聞き、都筑区でも展開できないかと思い、スタートさせました。何らかの事情により生活がお困りの方を対象にしています。みえづらい課題のため、地域でピラ配りをしたりするなど継続的な活動が重要だと思っています。

解決に向けた具体策と成果

地域全体の取り組みとするため、ボランティアではなく関わる皆さんが何かしらのベネフィットが得られる仕組みにしました。地元小学校ともコラボレーションしており少しずつ認知されるようになりました。まさに東山田のエコシステムといえます。一企業だけでなく地域全体でSDGsに取り組んでいるのが特徴です。

該当するSDGs目標

(3つまで)



7. イベントでSDGs（(株)ペッププランニング）

取組の概要

イベントの現場において、ゴミの大量廃棄や食材の無駄使い、食器類の使い捨て、電源の大量消費、水の無駄使い、などを感じている。ゴミの分別や配電配水の効率化によりSDGs対応が経費を抑える役割も持つことを社員が常に意識することを心掛けている。



取組を始めた動機・課題

多くの参加者が集うイベント会場において、皆が**同じ目的意識を持つ**にはどうしたらできるのかを考えたのがきっかけである。以後、世の中の流れがこちらに傾いてきており実行ステップが上がることを期待する。

解決に向けた具体策と成果

イベント運営マニュアルにゴミ分別や減量対策、節電節水などを意識的に記入するようになった。現場でもゴミステーションを設置して参加者が分別回収に協力してくれるようになった。次は脱炭素など使う側の問題意識改革かもしれない。

該当するSDGs目標
(3つまで)



23. 地域連携による次世代教育（株式会社富士通ゼネラル）

取組の概要

川崎市立末長小学校へ各学年へ年1回以上出前授業などの連携を行っている。海外とオンラインで繋いで現地人との国際交流、エアコンに関する簡易実験、エアコン解体体験、実業団水泳選手による水泳授業、支援級父兄対象の障がい者雇用現場見学会など費用をかけず既存の人材・コンテンツを活用している。



取組を始めた動機・課題

理系離れ、ものづくり体験が少なくなる中で次世代教育を行いものづくりは「楽しい」としてもらい、ものづくりに興味を持つ子ども達を増やしたいという思いで始めた。今後同様取組を更に他校などへも展開したいと考える。

解決に向けた具体策と成果

子ども達や教員から感謝され地域貢献に繋がっている。また子ども達へ教えるという通常業務で体験することが出来ないことが若手社員への教育に繋がっている。他校への展開には社内の更なる協力体制を構築していく必要がある。

該当するSDGs目標
(3つまで)



24. 健康 x 脱炭素ワークショップの開催（株式会社 富士通ゼネラル）

取組の概要

“笑顔のあふれる街づくり”に向け、健康 x 脱炭素社会をテーマに、川崎市と共に地域住民・大学生の皆様と議論する場を設けました。誰もが関心のあるテーマを年代関係なく自由な雰囲気話し合える様、カフェにいる雰囲気健康、脱炭素の必要性についてグループディスカッションし、発表を行いました。



取組を始めた動機・課題

川崎市、当社がそれぞれで行ってきた健康経営、脱炭素社会の実現という目標について、地域住民の方々やこれからの時代を担う学生の皆様の関心も高まってきており、一体となった行動変容を促すことで、“いきいきとした街づくり”を実現出来るものと考えたこと。

解決に向けた具体策と成果

普段の生活の中で健康、脱炭素に対し意識している内容や疑問をそれぞれが持つてはいましたが、話す機会も無く、行動変容までは至らなかったが、議論する機会を得て、積極的な意見も目立ち、当社を通して世代交流が深まる場にもなりました。当社活動も紹介出来、企業価値向上の一役も担えました。

該当するSDGs目標
(3つまで)



25. 神奈川大学でのワールドカフェ実施（株式会社 富士通ゼネラル）

取組の概要

「いきいき、わくわくする神奈川大学経営学部とは？それに近づくには何をするか？」をテーマに神奈川大学健康経営論の授業の一環としてワールドカフェを開催しました。参加した学生が対面での開催、議論を通じ、学生生活がより有意義なものとなるよう、意見交換、コミュニケーションが取れる場を設けました。



取組を始めた動機・課題

当社の企業理念の実践として進めている「サステナブル経営」の推進に於いて、健康経営は大きな課題、柱となっており、当社従業員のみならず、産学官一体となった取組みにも貢献することが、いきいきとした社会づくり、企業価値の向上に繋がると考えたから。

解決に向けた具体策と成果

未来を担う学生達に、ワールドカフェ(ワークショップ)形式で議論する場を設ける事で、コミュニケーションの活性化を促し、テーマに沿った内容の意見共有してもらう事で、個々の意見の発信、共感、協調が必要なことを実体験してもらい、問題解決の方法を学んで貰い、当社からも教育面への社会貢献が出来たと考えています。

該当するSDGs目標
(3つまで)



26. 「食」を通じた地域社会への貢献とフードロス削減、環境保護推進 (有限会社グリーンフーズあつみ・おつけもの慶)

取組の概要

たった一坪のお店から始めたお店が口コミで評判となり、皆さまの支持をいただきながら直営店が増え事業が拡大していく中で見え始めた問題を解決することで、使い捨てプラ容器の使用を年間85%削減達成するとともに地産地消の推進や地域産業の活性、持続性のある共創社会の展開に結びついた。

人材確保と育成

国籍、性別、年齢を問わず積極的かつ平等な雇用対策を実施。安定雇用、食の安定供給で企業の持続性を高める。

- 当社従業員の国籍
日本、韓国、中国、フィリピンなど

あごが落ちるほどおいしい中ムチ  **おつけもの慶**

製造工場の拡張
安心・安全な食の安定供給を目指した工場設備の拡張。生産性を高めるための設備を地元異業種企業との協業で受注。

自動中ムチ充填装置
(現在進行中)

かわさき町工場ユニット共同受注

使用する容器の見直しと効率化 職員全員の目線で取組み

再生可能な植物由来原料由来素材へ転換
どうもろしやサトウキビなどを含む包材
植物由来原料使用容器
植物由来原料(バイオマス) 利活用の P P 袋

●削減した年間7800kg(85%)の内訳

1白の平均数値：約400名(当社全従業員)
A: プラ容器の使用量 (1p26g/一人当たり購入約2p5分)
26g x 2p x 400名 x 30日 x 12月 = 7,468kg
B: シンクの使用量 (1p3g/一人当たり使用量約1p)
3g x 400名 x 30日 x 12月 = 432kg
A合計 7,900kg + B合計 432kg = 7,920kg
→ 7,800kg 削減

お客様/購入し、繰り返し持ち帰り専用容器の使用

2021年までに、使い捨てプラスチックを85%削減します。

地産地消の推進
神奈川県産品と納税品

食品ロスゼロを目指す…
大根やカブを使用するカリチキ、かか汁ムチを製造する際に副材として出る大根の葉、かぶの葉等をお弁当や総菜として二次活用を強化。さらに弁当や総菜類を冷凍販売することにより、保存が可能な野菜廃棄削減へ寄与。

取組を始めた動機・課題

コロナ課による巣ごもり需要の拡大により、販売商品の需要と供給増加に伴う使い捨て容器の使用や端材が増えたこと、また増産に伴う人材確保と育成、生産性を高めるための設備投資といった課題が見えたことがきっかけとなり、取組みを始めた。

解決に向けた具体策と成果

再生可能な植物由来原料を含む包材への切替えで環境負荷を軽減、食品ロスの軽減を目的とした端材活用による二次商品の開発、そして国籍や性別を問わない平等な雇用による人材確保と地元異業種企業との共創による工場設備機器の導入で生産性の向上へ寄与。

該当するSDGs目標
(3つまで)



35. 節電と緑化（有限会社馬場製作所）

取組の概要

社内全体の照明をLED化し消費電力が分かる計測器を設置、見える化により会社全体での節電に取り組んでいます。また、環境の一環として、社内緑化を推進、建物の周囲を整備し緑化することで、小さな一歩から大きな一歩へ、カーボンニュートラル実現へ向けて前進しています。



取組を始めた動機・課題

社内全体の消費電力を低減するために、はじめに実行したのが照明のLED化です。環境への配慮を取り組みへと変化し、消費電力の見える化を図った。それに繋がる環境への取り組みを推進、緑化を進めるのに苦労をしています。

解決に向けた具体策と成果

節電の初期費用を予算計画し、効果をあげています。緑化について毎日、女性社員がお手入れをしてコツコツと育て立派な花を咲かせ、観賞用としても社員のストレス緩和につながることを期待でき、社員同士のコミュニケーションを図れる場になります。

該当するSDGs目標
(3つまで)



55. リモート工場見学によるSDGs出前授業（株式会社デコリア）

取組の概要

お得意先でSDGsに積極的に取り組む(株)サンゲツ（名古屋）と(株)デコリアが協同で開催した取組。(株)サンゲツ本社の近隣小学校（名古屋市立名古屋小学校）の校外学習で(株)サンゲツショールーム見学と壁紙工場リモート工場見学を通して、地域企業・産業の学びとものづくりにおけるSDGsへの取組を学ぶ企画。



取組を始めた動機・課題

かながわSDGsパートナーとして活動している当社の取組をみて、(株)サンゲツ様から協力依頼を受けた。子どもたちでもわかる工場見学、リモートならではの利点と欠点を考慮し、現地にもスタッフを派遣してリアルな体験とコミュニケーションを意識した。

解決に向けた具体策と成果

生活の身近にある会社と商品を知ることで「働く」ことを学び、工場が取り組むSDGsを知ることによって環境への関心を高めることができた。また、2社のパートナーシップで子どもたちの学びの場を創出できた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



56. おきなわ&かながわSDGsパートナーのコラボ（株式会社デコリア）

取組の概要

おきなわSDGsパートナーの(株)サンゲツ沖縄とかながわSDGsパートナーの(株)デコリアがコラボレーションした取組。(株)サンゲツ沖縄が実施した沖縄県立石嶺児童園（児童養護施設）のリフォーム支援にかながわSDGsパートナーの当工場から生産時に発生する端材壁紙を提供した。



取組を始めた動機・課題

得意先である(株)サンゲツ沖縄がおきなわSDGsパートナー認定された報を受け、当社とコラボできないか？打診しZOOMミーティングを重ねて実現した取組。インテリア業界ができることを共に考え取り組んだコラボレーション企画。

解決に向けた具体策と成果

おきなわSDGsパートナーとかながわSDGsパートナーの県をまたいだSDGsパートナー同士のパートナーシップで取り組めた。

児童養護施設のリフォーム支援に加え、端材壁紙の再利用もできた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



57. アートで地域を盛り上げよう！（株式会社デコリア）

取組の概要

小田原フラワーガーデンのイベントを告知する看板を小田原城北工業高校デザイン科の生徒たちが製作。

看板の素材には(株)デコリアの端材壁紙を再利用した。出来上がった看板を最寄り駅である伊豆箱根鉄道大雄山線の飯田岡駅ホームに展示するという取組。



取組を始めた動機・課題

コロナ禍で発表の機会を失っていた高校生達に、活躍の場を与えてあげたいと地元企業3社が協力して企画した。今年で3年目3回目の実施となり恒例のイベントに成長している。

解決に向けた具体策と成果

デザイン製作を通してクライアントニーズを実現するプロセスを学ぶデザイナーの職業体験の場となった。また、イベントを通して地元企業の交流が生まれ地域活性化につながった。

該当するSDGs目標
(3つまで)

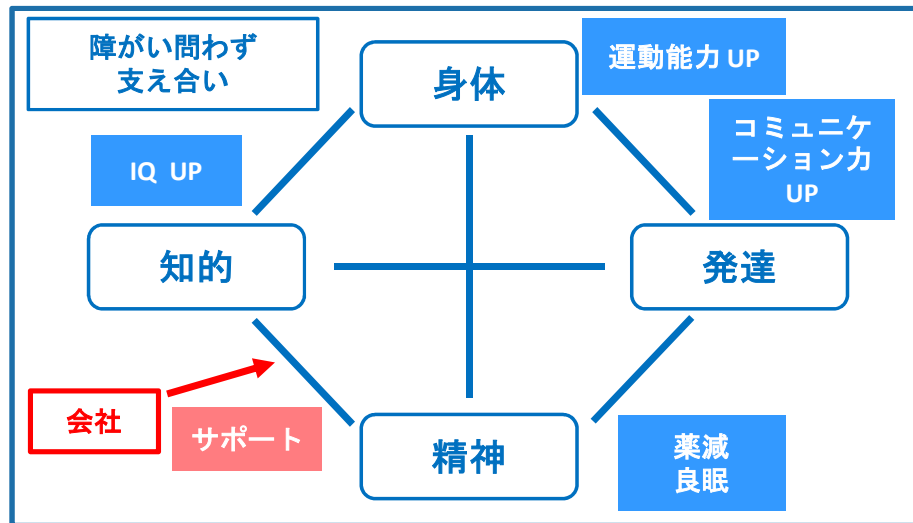


情報通信業

29. サポートし合うことにより障がいを軽減（富士ソフト企画株式会社）

取組の概要

当社の社員の9割は障がい者である。配属は、障がい種別にかかわらず混在するようにしている。異なる障がいの社員をサポートすることにより、自分自身の障がいを軽減することができる。親会社のリワークも障がい力を活かして受け入れ、障がい者が健常者のサポートをする逆転の発想が活きる。



取組を始めた動機・課題

障がいを持った方を雇用しても、職場定着が課題であった。自分は人の役に立っているという感覚が持てず、仕事に身が入らないことが原因のひとつと考えられた。障がい者だから自分はサポートをされる側だという認識が受け身となって表れていた。

解決に向けた具体策と成果

社内では大半の社員が障がいを抱えている。他の社員が苦手としているところを自分がサポートできる環境を作ることにより、人の役に立っているという感覚を持つことができる。これが自己肯定感を高め、働き貢献する喜びとなる。自助力を活かすことにより、お金をかけずとも職場定着につながる。

該当するSDGs目標
(3つまで)

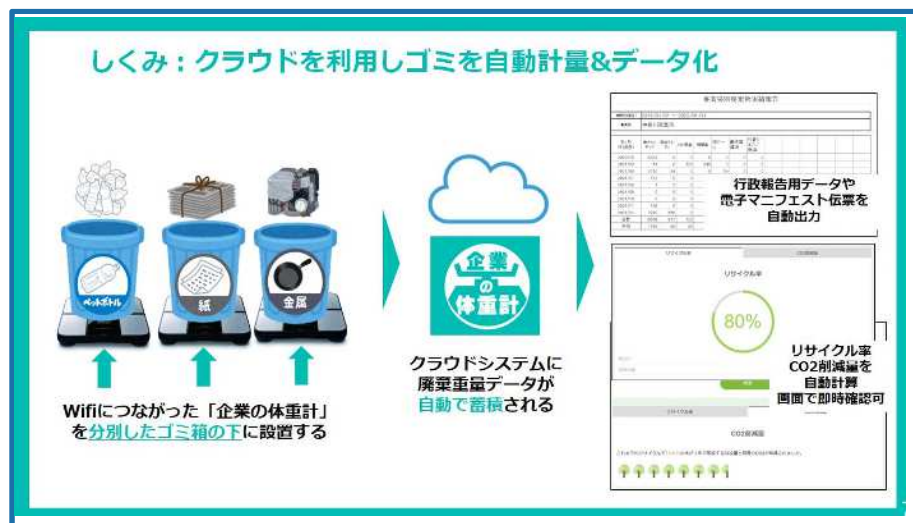


36. 産業廃棄物管理のDXにより廃棄したゴミの約90%をリサイクル実現 (株式会社ケイ・システム)

取組の概要

ショッピングモール内のテナント会議で、「企業の体重計」で取得できた店舗ごとのゴミの排出量を報告、排出量削減の施策を検討・実施

・ **今までリサイクルをせずに廃棄していたゴミの数量の把握**が可能となり、改善策を実施し、廃棄したゴミの**約90%をリサイクル実現**



取組を始めた動機・課題

本社から遠方に位置する「ショッピングモール」のゴミ排出データを即時把握することを行いたかったため。

それまで紙でおこなっていた **manifests 伝票処理を全店舗で電子化し、ペーパーレス化**を実現するための意識改革（行動変容）が必要だった。

解決に向けた具体策と成果

廃棄物排出量の目標と実績を容易に把握できるようになり、現場担当者の廃棄物削減意識が高まった結果、行動変容のきっかけとなった。**利害関係者（金融機関等）へ、廃棄物削減・リサイクル促進といったSDGs経営を実施していることを、データとともに説明可能となった。**

該当するSDGs目標
(3つまで)



卸売業・小売業

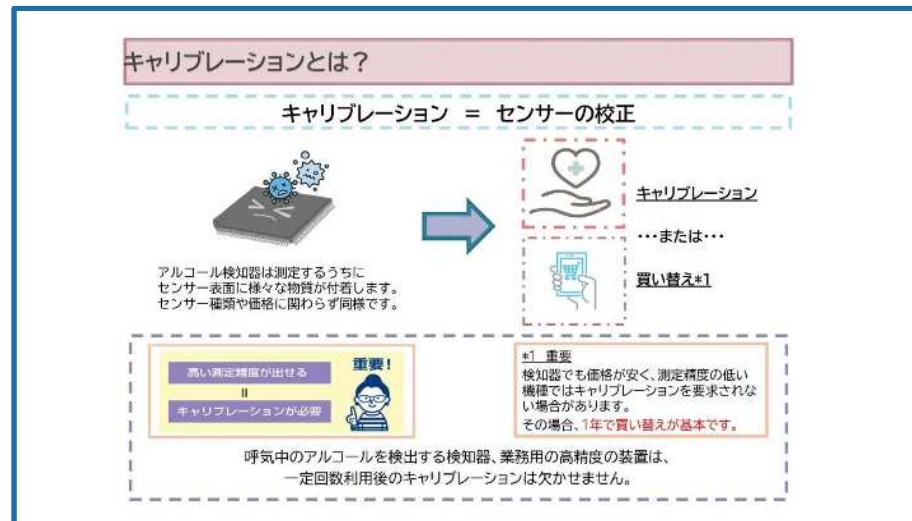
8. アルコール検知器で飲酒運転撲滅とSDGsを目指す！(有限会社ドリームチーム)

取組の概要

あなたの悩みを世界の知恵で解決する。を合言葉にお悩み解決商品とサービスを提供。交通安全・飲酒運転事故撲滅に向けアルコール検知器拡販及び飲酒運転管理サポートを行う。取り扱う検知器は清掃・整備・校正しリユースに努めている。

取組を始めた動機・課題

一般的にアルコール検知器は使用を続けるとセンサーの校正が必要。携帯型では現状、校正せず1年程で使い捨てとする検知器が多く、電池はまだ使えるにも関わらず使い捨て+買い替えが発生している。



解決に向けた具体策と成果

メンテナンスとリユースのサービスを導入。センサー校正により高い測定精度を維持し、購入後長期使用できる仕組みを構築。リユースにより、アルコール検知器を必要としている企業への検知器提供に繋がり、高精度検知器を用いた飲酒運転事故撲滅とごみの廃棄削減を目指す。

該当するSDGs目標
(3つまで)



9. リユーストナーカートリッジで、誰でもできる脱炭素・SDGs活動（原貿易株式会社）

取組の概要

レーザープリンター用のトナーカートリッジのリユースを推進し、使用してもらえる企業・団体を募集している。CO2削減・プラ削減・コスト削減が可能なリユーストナーカートリッジで、誰でも「できることから」脱炭素・SDGs活動に取り組めることを広く発信し、企業のSDGs活動に貢献している。

取組を始めた動機・課題


当社は、リユーストナーカートリッジ事業においてCO2やプラスチック削減を通じSDGs活動をいち早く行ってきた。リユーストナーカートリッジがSDGs活動に役立つことを広く知ってもらい、多くの企業・団体等に利用していただきたいと考えた。


解決に向けた具体策と成果


リユーストナーカートリッジについての情報発信に注力している（リーフレットの作成配布、講演会での発表を通じた神奈川県や横浜市との連携）。脱炭素やSDGsに取り組む企業として当社の評価が高まり、新規ビジネスの機会創出にもつながった。他の企業・団体のSDGs活動にも貢献している。

誰でもできる脱炭素・SDGsの取り組み
～プラ削減にも役立つリユーストナーカートリッジの活用～
私たちは、印刷で脱炭素とプラ削減を目指しています

リユーストナーカートリッジは、使用済みの純正トナーカートリッジを回収し再利用した製品です。

 リユーストナーカートリッジを1本使用すると、新たにカートリッジを製造するのに比べ、CO2排出量を少なく見積っても3.4kg(*)削減できます。
(※) A3モノクロー体型の場合

 トナーカートリッジは、必要な部材だけを交換し、トナーを充填することで生まれ変わります。新たにカートリッジを製造するのに比べ、プラスチック使用量が少なく、使うだけでプラ削減につながります。



しかも、リユース品の価格は純正品の約半分。
AICB調べ

にも有効！

該当するSDGs目標
(3つまで)



10. 横浜発！「濱帯（はまおび）」プロジェクト（株式会社ワンスレッド）

取組の概要

開港以来スカーフやハンカチの産地として培われた横浜の縫製・染技術を活用し、綿100%で1枚布の「濱帯（はまおび）」を作ります。さらに、1枚布を使ったおんぶや抱っこ、防災、生活の知恵などを共有するコミュニティを開催し、地域間交流や多世代交流の場を設け、地域と人の活性化を目指します。



取組を始めた動機・課題

共働きが当たり前となり、夫婦共に家事育児をする時代。地域で子育てをサポートするきっかけとして、多世代コミュニティの接点として、昔ながらの「1枚布」に着目。様々な用途があり使い切ることができる1枚布を通じ、男性の家事育児推進と地域産業活用、地域交流を深める取組をスタートします。

解決に向けた具体策と成果

濱帯は生地のカットから縫製まで横浜市内で行います。パッケージ等の軽作業は地域活動支援センターに依頼し、地域社会での共生を目指します。また市内の子育て支援団体等と連携し、使い方講座や親子で参加できるイベントを開催。情報交換や悩み相談ができ、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

該当するSDGs目標
(3つまで)



58. ワークショップでリサイクル意識の啓発を（株式会社高部金属）

取組の概要

小学生の児童を対象に、飲料容器のリサイクルに関するワークショップを開催し、リサイクルとSDGsへの意識啓発を行ったことで、児童ならびに保護者のSDGsへの意識が高まった。



取組を始めた動機・課題

かつての活動よりも多くの方へリサイクルの意識啓発を行い、今後は積極的に分別を行ってもらえるよう取り組みを始めた。広く意識啓発を行うにあたり、複数箇所でワークショップを開催する為の場所の確保とより多くのワークショップ対象者の確保が課題であった。

解決に向けた具体策と成果

かながわSDGsパートナーへ登録している、株式会社明日葉様へ連携を申請、明日葉様の運営する学童施設にてワークショップを開催した。

課題であった開催場所・対象者の問題をクリアし、取組を行う事が出来た。

該当するSDGs目標
(3つまで)



59. 体験型SDGs「ボランティア塗装」（ヤブタ塗料株式会社）

取組の概要

「ボランティア塗装」として、指導者と塗料を提供し、地域の生徒や児童、保護者にも参加してもらい、学校など公共性のある施設の塗り替えを行っています。「塗装＝ものを長持ちさせる」という説明と同時に、実際に楽しく経験してもらうことで、資源を大切にすることを精神の啓蒙効果を強化しています。



取組を始めた動機・課題

ものを長持ちさせるには、塗料の力が必要。塗料業界として、SDGsへのこの大きな役割をしっかりと伝えたいと思い始めました。課題として、日常生活では、塗料の役割を認識しにくい点や資源や物を大切にする精神を本当に実感させることの難しさがありました。

解決に向けた具体策と成果

座学と同時に、実際に作業に携わることで、塗料による保護の仕組みを理解し、愛着をもって、ものを大切にする精神につなげた。さらに、参加してくれた児童・生徒には、使い捨てではなく、「塗り替えによって長く使うことができる」という発想も生まれる。

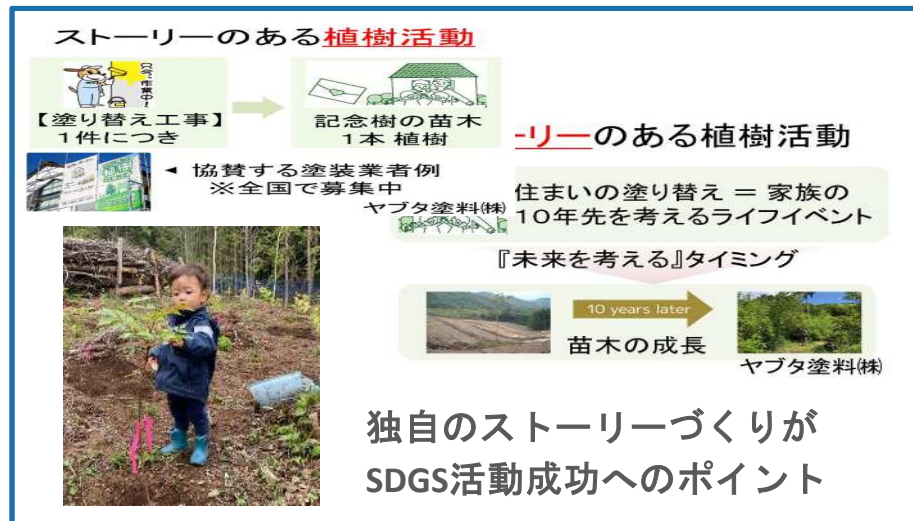
該当するSDGs目標
(3つまで)



60. 塗料業界ならではのストーリーのある植樹活動（ヤブタ塗料株式会社）

取組の概要

住まいの塗り替え工事1件につき、記念として苗木を1本植樹。お施主様をオーナーとして証明書をプレゼント。想いに賛同を得て、全国の塗料販売店、塗装業者とともに活動。ただの植樹で終わらせず、業界ならではのタイミングや仕組みを考え、持続性・発展性・啓蒙性を担保しています。



取組を始めた動機・課題

塗料は、実は住まいの建材を保護することで環境保護につながっている。業界を代表して、環境保全活動への想いを伝えるため、「植樹活動」という形で取り組みを始めました。課題は、活動コスト（時間・費用）と植樹や苗木への思い入れの強化・啓蒙の難しさ。

解決に向けた具体策と成果

NPO法人の「プレゼントツリー」という仕組みを利用して経済活動と環境保全活動を両立。「家族の未来を考える」住まいの塗りかえのタイミングで植樹することで啓蒙活動につなげる。全国の販売店、塗装業者とともに活動することで発展性を確保。

該当するSDGs目標
(3つまで)



不動産業・物品賃貸業

30. 本業（不動産業・建設業）に連動した活動（ウスイホーム株式会社）

取組の概要

本業を活かした「長期優良住宅」「認定低炭素住宅」「既存住宅の再生（リノベーション）」の取得・普及と「空地・空家・空きテナントの有効活用」。

取組を始めた動機・課題

社業発展とSDGs達成の両立が目指せるよう、本業（不動産業・建設業）にてSDGsの取組ができることはないかと思いはじめたのが動機。



解決に向けた具体策と成果

本業とSDGsとの紐づけをし、各取組の短期・中期目標値を含めた事業計画書を作成し、実行することにより、社業として全社で取り組むことができた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



31. 社内コンテストによりSDGs参加意識を向上（ウスイホーム株式会社）

取組の概要

全部門・店を対象に、17のゴールから取り組む施策を公募。そこから5つに絞った取組から各部門・店はチョイスし実行する「+U SDGs ACTION AWARDS 2022」を実施。

取組を始めた動機・課題

かながわSDGsパートナー登録を機にSDGs活動の社内周知及び社外への弊社取組の認知を高めたいと考えはじめたのが動機。



解決に向けた具体策と成果

選定された5つ（地域の清掃活動／ペーパーレス化と事務所の省エネを推進／フリーマーケットの実施と売上寄付／寄付型自販機の設置／省エネルギー商品の普及）の1つを選び、活動報告を社内ポータルにて公開。

該当するSDGs目標
（3つまで）



32. 定期的な取り組みと配信で活動継続（ウスイホーム株式会社）

取組の概要

SDGsへの取組を継続するために毎月初、役員からのSDGsに関する施策やメッセージを配信、その感想を基に新たな施策を立案。

取組を始めた動機・課題

SDGsの達成に貢献するためウスイグループSDGs宣言をしたが、社員の認知度・理解度が高いとは言えない状況であった。



解決に向けた具体策と成果

これまでの地域貢献活動や自社の制度を関連付け、それを定期的に配信するとともに、その感想を全部門・店からフィードバックし、そこから新たな施策を立案・実施することができた。

例) フードドライブ／SDGsアクションアワード

<https://www.usui-home.com/sdgs/>

該当するSDGs目標
(3つまで)



～



サービス業

11. 化学物質を使用しない清掃作業（株式会社 ボイス）

取組の概要

弊社は、日常清掃作業に洗剤を極力使用せず、自社で購入した生成装置によって作った、ナノバブルを充填させたアルカリ電解水を用い、「化学物質の排出量を減らす清掃業務」にとりこんでいます。



清掃前

清掃後

（洗剤無でここまで綺麗になります）

取組を始めた動機・課題

- ① すぎが不要なので、従業員の生産性向上、作業負担軽減。
- ② 洗剤を使用しないので、化学物質を排出しない管理の実現。従業員の安全・安心。
- ③ 自社生成して洗剤コスト削減。

解決に向けた具体策と成果

実例の紹介、使用方法（希釈方法等）の指導、メリットの教育を継続的に実施し、現在20L容器で年間1500缶使用しています。理論値ですが、弊社の基準的な20L洗剤換算で、200缶程度削減できました。

該当するSDGs目標
（3つまで）



12. 検索エンジン「ECOSIA」を使う(株)日本コンピュータコンサルタント)

取組の概要

日頃パソコンやスマホで使用している検索エンジンを「ECOSIA」(エコシア: <https://www.ecosia.org/>)に変更する取組みを社内展開しています。ECOSIAは収益源である広告収入の80%を非営利団体WWF(世界自然保護基金)に寄付しており、日常業務で検索を行うだけで、自然保護に寄与する活動になります

Web検索45回 = 1本植樹



取組を始めた動機・課題

ECOSIAで約45回検索するごとに1本の木が受けられ、これまでに1億本以上の植樹が実行されているとのことで、弊社はITサービス業で日常的にPCを利用したWeb検索を行うため業務利用頻度も高く、検索エンジンとしての性能や安全性も問題ないため採用。ただ、顧客先PC使用などで制限のある社員などには強制はできません

解決に向けた具体策と成果

ブラウザの設定で既定の検索エンジンをECOSIAに変える、もしくは拡張機能を使用すれば、アドレスバーを使った検索や既定ブラウザにECOSIAを設定できます。ECOSIAのスマホアプリもあり、活用可能です。まずは管理部門で運用し、取組みを社員に紹介することで、社員の自発的な自然保護への関心の和が広がります

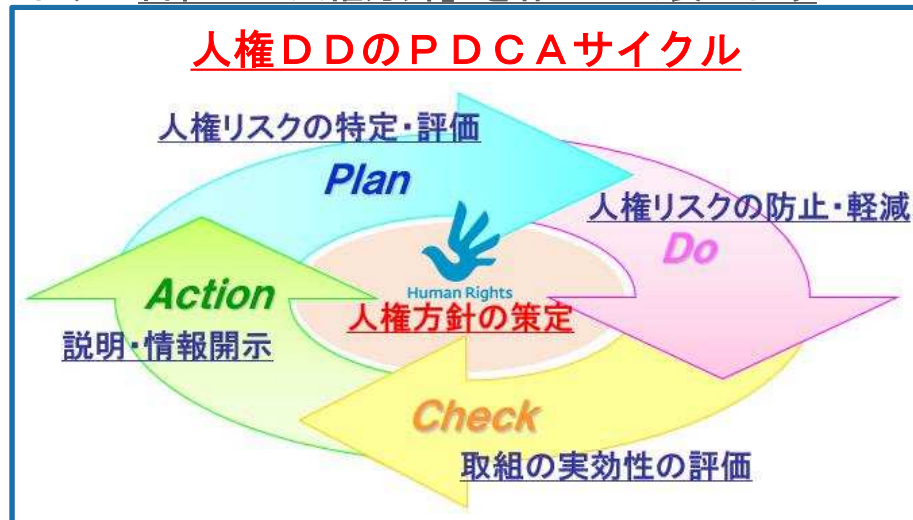
該当するSDGs目標
(3つまで)



13. 人権デュー・ディリジェンスの実施（株）日本コンピュータコンサルタント

取組の概要

日本政府や国連が推奨する「ビジネスと人権に関する指導原則（以下、指導原則と呼ぶ）」を支持し、ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の実現に向けて、「ビジネスと人権」に関する理解促進と意識向上、人権尊重を促進する仕組みの整備と救済メカニズムの整備および改善を行う。
まずは自社の「人権方針」を作って公表しよう！



取組を始めた動機・課題

自社内でのハラスメントを防ぐルール、相談体制の整備を行うなかで、安心して働ける職場環境作りのためには、もう少し大きな視野での人権尊重に関する方針の策定や人権デュー・ディリジェンス（人権DD：人権リスクを特定・分析・評価して適切な対策を策定・実行するプロセス）の実施が必要ではないかと考えた

解決に向けた具体策と成果

「指導原則」に基づき、以下の企業方針と手続きを規定することで人権尊重の内外への周知を行う。

1. 人権方針の策定（↓自社HPでの公表）まずはコレ！
<https://www.n-c-c.co.jp/wp-content/uploads/HR.pdf>
2. 人権DDの実施（リスクの特定・分析・評価）
3. 救済メカニズムの構築（是正処置・教育）

該当するSDGs目標
（3つまで）



14. 人材紹介で経済成長と途上国の支援を！（日本ミャンマー支援機構株式会社）

取組の概要

人材不足の中小企業に、日本へ出稼ぎに来るミャンマー人を紹介している。

日本の地域の発展と経済成長を促し、ミャンマーでの貧困削減や後発開発途上国への支援をしている。



取組を始めた動機・課題

社長がミャンマーから難民として日本に来日してから、日本に出稼ぎを希望するミャンマー人から多く相談を受け、株式会社として取組を始めた。

解決に向けた具体策と成果

人手不足の地方の中小企業へミャンマー人を紹介し、日本の経済成長を促した。また、ミャンマー人の雇用創出機会を増やし、貧困削減や後発開発途上国への支援を行った。会社を創設してから10年で約140人のミャンマー人に就職支援を行い、その周りの1400人のミャンマー人の経済的豊かさの発展に貢献した。

該当するSDGs目標



15. 女性のライフワークバランスとスキルアップの実現！（株式会社TIARE）

取組の概要

女性が長く働けるようスキルアップ計画や研修を実施。当社が掲げている【女性の自立】をテーマに目標設定シートや社内研修動画を配信し、1人1人が自分のタイミングで学べる環境を徹底的に構築していきました。また社内会議でスキルアップの取り組みの発表をし、みんなで共有することにより、全員でサポートができるよう環境づくりにも配慮しています。



取組を始めた動機・課題

代表自身が出産・社会復帰したときに子育てをしながらのスキルアップの困難を経験しました。

解決に向けた具体策と成果

成長期の若い従業員や子育てをしながらもスキルアップしたい従業員はスキルアップ目標。

子育てや介護に時間を使う従業員はサポートが目標と個人のワークバランスを元にスキルアップを実現できている。実際に時短社員雇用で時間の確保とマネージャー・店長は子育て中のママです。

該当するSDGs目標
(3つまで)



16. 循環ぷらっと（株式会社BPLab）

取組の概要

循環ぷらっと

繊維製品回収BOX設置に加え、そのスペース化でぷらっと参加を促進するイベントプランです。その実施効果、取組み易さが皆さんからの評価につながっております。



取組を始めた動機・課題

繊維製品の循環では回収を進める必要がありますが、単に回収ボックスを置くだけでは難しいという課題があります。この活動が何になるのか？ 回収したものが何に再生されるのか？ “見える化”してゆくことが大切と感じたのが、これを始めた動機です。

解決に向けた具体策と成果

22年11月、イオンモール倉敷様で開催。また繊維再生素材で作るペンケースなどのワークショップも同時に行う。結果、参加者から関心を持っていただき、1週間で600キロという回収実績となる。このイベントは月末まで開催で、2トン程度が最終実績になる予定。回収や取組み理解が進んだ。

該当するSDGs目標
(3つまで)



17. 神奈川県版SDGsボードゲームを活用したワークショップ (合同会社Magical Grow)

取組の概要

SDGsに取り組んでいる企業・団体・自治体の実際の実践事例をもとに、神奈川県版SDGsボードゲームを制作した。中学校・高校の探究の授業や、企業・商工会議所・法人会等でワークショップを実施している。コロナ禍でも対応できるよう、オンライン版SDGsボードゲーム（全国版）も活用している。



取組を始めた動機・課題

企業や自治体の皆さまから、SDGsに取り組みたいが、何から始めたら良いのか分からないという課題がある。また、学校でも、探究学習授業の中で地元の具体的な活動事例を知りたいニーズがあり、神奈川県内で取り組まれているSDGs実践事例を伝えたいと考えた。

解決に向けた具体策と成果

ボードゲームで神奈川県内の実践事例が学べ、受講後は、自分達に取り組む一歩が見出せたとの意見が多く聞かれた。受講した学校からは、地元でも知らなかった多数の事例があり、より地域活動に目を向け、参画する行動に繋がった。事例協力企業と学校のコラボレーションも生まれた。

該当するSDGs目標



18. 海岸フィールドワーク & 「海ごみ」を考えるワークショップ (合同会社Magical Grow)

取組の概要

「海のごみ」はどこから運ばれてくるのか、綺麗な砂浜の中はどのような「ごみ」が含まれているのか、海岸フィールドワークを通し、現場で学ぶ。更に、仕事と暮らしの2つの観点から「海ごみ」を考えるゲーム体験を行う。目で見た事実から行動に繋げる体験型ワークショップで実践力を身につける。



取組を始めた動機・課題

海岸清掃活動は盛んに行われているが、「ごみ」を生み出さない社会を目指さなければ「海ごみ」は無くならない。一見綺麗に見える海岸にどのような「海ごみ」があるのか、採取体験をすることで深刻な状況を知る。自身の行動が環境にどのような影響を及ぼすか、ゲーム体験を通じて体得し、行動の変化に繋がりたい

解決に向けた具体策と成果

街から川、川から海に清掃活動を実施すると「ごみ」の特性が理解できる。地元NPO団体と協力し、フィールドワークを充実させ、参加者の知識、事実認識効果を上げた。参加した小学生も砂の中に含まれているマイクロプラスチックの量に驚き、自分が行動することで周りを巻き込みたいと理解を深めていた。

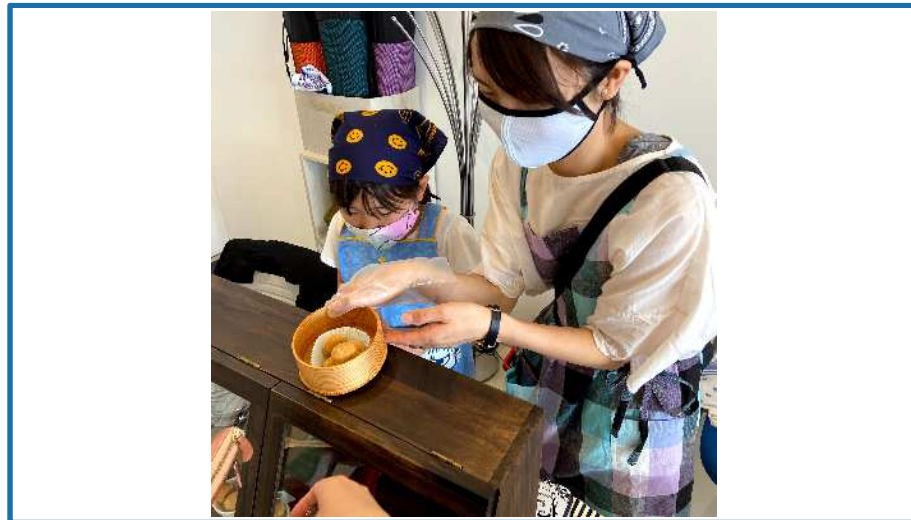
該当するSDGs目標



33. なるべくゴミを出さないマルシェの開催（エコルシェ横須賀）

取組の概要

地域で一番エコなマルシェを目指して立ち上げ。地域のお店の商品を個包装せずに販売していただきお客さまは持参した容器で商品をお持ち帰り。イベント自体のゴミも減らす工夫をしています。



取組を始めた動機・課題

海のゴミは街から来ていることを知り、ポイ捨てをしないだけではなくそもそもゴミとなるものを発生させないことが大切だと思ったため。

解決に向けた具体策と成果

「なるべくゴミを出さない」が出店の条件。それまで無意識にプラの袋に入れて売られていた商品の売り方を考えることで、お店の人の「プラごみ」への意識も変わった。同業同士、情報交換などができるようになった。

該当するSDGs目標

(3つまで)



34. ゴミを出さない！に特化したイベントの開催（エコルシェ横須賀）

取組の概要

「なるべくゴミを出さない売り方をする」
これが出店の条件のマルシェを2021年4月より毎月開催しています。売る側も”持ち帰った後にゴミを出さない”売り方を考え、買う側のマイ容器（タッパー等）持参率は80%を超えています。



取組を始めた動機・課題

海洋プラスチックゴミ問題が自分たちの生活に直結していることを知り、そもそも使い捨てプラスチックを自宅に持ち込むことを減らしたかったことと、横須賀で一番エコなマルシェを作るために始めました。

解決に向けた具体策と成果

最初は「マイ容器」を持って買い物に行くということがあまりピンと来ていない方も多かったですが、数を重ねるごとに関わる人みんなの意識レベルが上がっているのを感じています。会場は集客に繋がり、参加企業はSDGsへの取り組みにも直結します。

該当するSDGs目標

(3つまで)



38. FujisawaBluehandsProject(フジサワブルーハンズプロジェクト) (藤沢市資源循環協同組合)

取組の概要

FujisawaBluehandsProjectとは藍染め(手も青く染まります)を通じて藤沢の独自ブランドを創出し、雇用創出や地域活性化を図ります。藤沢市内業者で衣類等のデザイン及び提供を(有)ラファイエットが行い、(株)アートモリヤの指導のもと、染色作業と場所の提供を藤沢市資源循環協同組合が行います。市内事業者が染色された衣類を制服として使用し、藤沢市がこの取組についての広報及び周知を行います。



取組を始めた動機・課題

藤沢市とラファイエットがもともと取り組んでいるFUJISA CITY LOVE PROJECTに賛同し、古い衣類等を藍染めし、リユースすることでごみの減量化につなげ、染手を障がい者に担ってもらうことで、雇用創出を図り、染色した衣類等については、市内企業の制服として提供し、将来的に一般向けの販売を行い、藤沢市のシティプロモーション活動に寄与します。

解決に向けた具体策と成果

【プロジェクトに参加する事で】

- (障がい者雇用) 染手を障がい者に担ってもらうことで、雇用の創出を図ります
- (伝統工芸) 藍染の文化の継承につながります
- (環境配慮) 古い衣類等を藍染し、リユースすることでごみの減量化につなげます

該当するSDGs目標
(3つまで)



39. 業務電子化によりペーパーレスと業務効率化（藤沢市資源循環協同組合）

取組の概要

IoTを駆使したシステム（BIOISM社）を導入することにより、業務効率化を図る。回収車両に搭載したタブレットと事務所パソコンの連携により回収状況や現在地を事務所でリアルタイムに知ることができ、ルート通りに回収しているか等を確認し、フォローすることができるため、取りこぼし等のリスクを下げることができます。



取組を始めた動機・課題

昨今、回収従事者が病欠（新型コロナウイルス等）で欠員した場合、常時回収作業にあたっている者が休まざるを得ない状態となり、回収業務においてはコースを覚えている者が休んでしまうと収集自体が困難になる事を避けるため、IoTを駆使したシステムを導入する事により回収エリアや回収ルートを登録し、タブレットに表示しコースを覚えていない人でも収集することができ、事務所でも情報共有できかつBCP対策にもなる。

解決に向けた具体策と成果

【スマートな業務対応の実現】

回収状況がリアルタイムで更新、一目で情報共有が可能となる。また、回収従事者のタイミングで情報を取得でき、回収対応が可能となる。

該当するSDGs目標
(3つまで)



40. 独自のサステナビリティ取り組みプランの実行(株式会社林水泳教室)

取組の概要

自社グループでのSGDsに貢献する活動を「スマイルアクション」と名付けて項目を設定し、各拠点単位で実行を開始した。

取組を始めた動機・課題

従来から省エネ、地域活動は行ってきたが、部署・拠点単位での一過性の取り組みが多く、取組みの内容も共有されていなかった。

The collage consists of three pages from a document:

- Page 1 (Left):** Titled "ハヤシグループはCSV推進に取り組みます" (Hayashi Group is committed to CSV promotion). It defines CSV as "Creating Shared Value" and states the group's goal to contribute to society through business. It lists six pillars of CSV: Sports, Local, Business Growth, Environmental Safety, Employee Well-being, and ESG.
- Page 2 (Middle):** Titled "はじめよ!『スマイルアクション』サステナビリティ行動計画" (Let's start! 'Smile Action' Sustainability Action Plan). It introduces the "スマイルアクション" (Smile Action) initiative, which is a motto of "Smile, Enjoy, Do What You Can". It lists five action items: 1. Promote "Smile, Enjoy, Do What You Can" in customer/employee interactions. 2. Implement CSV-related activities in daily business. 3. Start from the current level of implementation. 4. Set targets and measure/improve. 5. Improve the status of implementation across the group.
- Page 3 (Right):** Titled "はじめよ!『スマイルアクション』今すぐできる取り組み項目" (Let's start! 'Smile Action' Action Items). It provides a table of specific action items for various departments, such as "Energy-saving measures" and "Community activities".

解決に向けた具体策と成果

業務における省エネ、省資源、エコ活動を全社的な活動とする事で社内浸透を図ると共に、スケール感により企業イメージの向上の訴求効果を高めることが出来た。

該当するSDGs目標
(3つまで)



41. 自社施設周辺のクリーン活動(株式会社林水泳教室)

取組の概要

茅ヶ崎、藤沢、鎌倉のグループ各拠点において、業務時間中に従業員による周辺の清掃活動を実施している。



取組を始めた動機・課題

これまで茅ヶ崎の海岸エリアの清掃を行ってきたが、所属するエリアや業務の都合等で参加者が限られていた為、参加しやすいフレームを構築したいと考えた。

解決に向けた具体策と成果

拠点ごとに独自に計画を策定して実行する形とした。実施の際は制服を着用、SNSで発信する事で活動を周知しており、地域住民とのコミュニケーション促進に寄与している。

該当するSDGs目標
(3つまで)



42. 市民皆泳で水の事故防止に貢献(株式会社林水泳教室)

取組の概要

水泳の啓発と水難事故防止の観点から市営プールを利用して、水が苦手な子どもを対象にした水泳教室と親子で参加する着衣泳教室を開催した。



取組を始めた動機・課題

コロナ禍で小中学校での水泳授業の中止が続いており、子ども達が水と親しむ機会が減ってしまった。

土地柄、海や水辺での水難事故の懸念もあり、安全に楽しむための啓発が必要との認識があった。

解決に向けた具体策と成果

水が苦手・泳げないといった子ども達に水と触れ合うきっかけを作ることが出来た。

着衣泳教室では、命を守るための備えを親子で学ぶ機会を提供した。いずれも参加無料とし、150名超の市民が参加した。

該当するSDGs目標
(3つまで)



43. 中学生の職場体験で次世代人材の育成に貢献(株式会社林水泳教室)

取組の概要

地域の中学校生徒の職場体験の受け入れに協力し、未来を担う子供たちの勤労観・職業観の育成に貢献した。



取組を始めた動機・課題

コロナ禍を経て3年ぶりに地域の公立中学校から要望があった。生徒が将来の仕事のイメージや興味のある分野への知識、理解を深める機会であり、地元企業として積極的に協力したいと考えていた。

解決に向けた具体策と成果

今年度は定員を超える参加希望があり、7校15名を受け入れた。参加者からは、体験後の報告や手紙で中学生らしいあたたかい感想・メッセージが寄せられた。また、社内の活性化や会社のイメージアップ、子どもの意識の把握等様々なメリットがあった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



44. 紙の運用改善、デジタル化でペーパーレスを実現(株式会社林水泳教室)

取組の概要

紙取り扱いのルール改善、デジタルツールの導入など様々な取り組みで紙の使用量削減に取り組んだ。



取組を始めた動機・課題

大量に発生する申請書、文書等の取り扱いに伴う保管、廃棄が問題になっていた。また、紙からデータへの入力ミスなどが起きていた。コロナ禍における社内インフラのデジタル化推進も追い風となり、文書削減に取り組む事となった。

解決に向けた具体策と成果

プールでのWi-Fi環境を整備し、タブレット端末でのデータ入力に移行した。印刷方法と枚数の徹底した管理工夫、社内啓発で紙の量を抑えコストを削減した。入力工数とミスの削減、ワークフローシステム導入、ミーティングや顧客向けの説明会等をオンライン化、帳票類と文書管理の電子化を実現した。

該当するSDGs目標
(3つまで)



45. ハンカチ持参の呼びかけで紙タオルの削減を実現(株式会社林水泳教室)

取組の概要

スクール生に、手洗い用ハンカチの持参を呼びかける事で、ペーパータオルの利用を大幅に削減できた。また経費の削減にもつながった。



取組を始めた動機・課題

教室への入室時、おやつ前、トイレ時に手洗いをするルールとしており、施設側で用意したペーパータオルを大量に消費する事が課題になっていた。

解決に向けた具体策と成果

保護者へハンカチの持参を促し、ハンカチを忘れた子のみが使用するまでになったことで、ペーパータオル使用量は3分の1程度、1日につき生徒60名で延べ180回分ほどの削減効果となった。

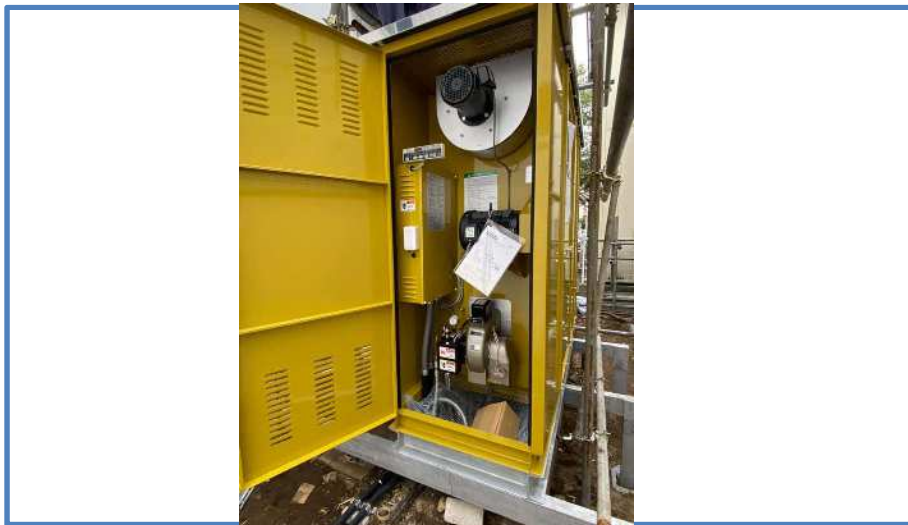
該当するSDGs目標
(3つまで)



46. 空調システム入替えと電灯LED化でCO2削減を実現(株式会社林水泳教室)

取組の概要

プールおよび体育館の空調設備を省エネタイプの最新機器に入れ替えた。また、既設照明器具のLED化した。



取組を始めた動機・課題

設備の経年劣化、汚れ等による能力低下で、空調の効き、照明の照度が悪くなり、快適性、安全性が損なわれていた。また消費電力の効率が悪く、電気使用量とコストの負担が問題になっていた。

解決に向けた具体策と成果

最新の施設暖房システムへの入れ替えおよび照明のLED化により消費電力が約1/6となり、光熱費およびCO2削減を実現した。

該当するSDGs目標
(3つまで)



47. 遊休農地を活用した野菜作りで地域に貢献(株式会社林水泳教室)

取組の概要

茅ヶ崎市内の遊休農地を利用して、社員自ら野菜作りに取り組んでいる。収穫した野菜はスポーツ施設を利用するお客様に提供している。



取組を始めた動機・課題

地域に点在する遊休農地の活用して、施設に通う子ども達の農業体験の機会の創出と作った野菜を地域の方々に提供する事で企業価値向上を図りたいと考えた。

解決に向けた具体策と成果

年間を通して季節の野菜作りを行っており、収穫した野菜は利用者へ安価で販売し、好評を頂いている。また野菜は社員への賄いとしても利用している。

収穫イベントを実施し、親子での農業体験と食育にもつなげることが出来た。

該当するSDGs目標
(3つまで)



48. 茅ヶ崎市と災害時応援協定を締結(株式会社林水泳教室)

取組の概要

地元茅ヶ崎市と災害時応援協定を締結し、被災者の被災生活の負担等を少しでも軽減できる環境を整備した。

取組を始めた動機・課題

市と災害時応援協定を締結して35年が経過し、時代に即した内容に改める必要性を感じていた。

茅ヶ崎市と株式会社林水泳教室
2021年12月22日
市民安全防災推進課 美濃 若井 麗穂
電話0467-(仮2)-1111(内線1466)

株式会社林水泳教室・株式会社バババ湘南スポーツクラブと
災害時における生活用水の提供等に関する災害協定を締結

市は12月22日に、市内で水泳教室等を運営するバババグループの株式会社林水泳教室および株式会社バババ湘南スポーツクラブと、「災害時における被災者の生活支援に関する協定」を締結しました。本協定によって被災者への生活用水の供給など、被災者の被災生活の負担軽減が期待されます。

1 協定締結に係る経緯
市と株式会社林水泳教室等は、19年7月6日に「湘南地区における飲料水の確保に関する協定」を締結しました。この協定から、両社が活動された令和元年度後半(自衛隊1号館)の被災地での支援を踏まえ、両社により貢献したいとのご意向をいただき、時代に即した協定内容へあらためることとなりました。本グループの株式会社バババ湘南スポーツクラブも、協定の協定を締結します。

2 協定の経緯
(1) 名 称 「湘南地区における被災支援の協力を促進する協定」
(2) 締 結 先 株式会社林水泳教室 (名称記12-1)
株式会社バババ湘南スポーツクラブ (名称記1-4-20)
(3) 締 結 日 2021年12月22日
(4) 主 体 等 ・生活用水の提供
・被災者への提供
・入浴施設等の使用

3 市民コメント
この日は、大変有意義な協定の締結であったことと感謝申し上げます。
災害時の生活支援の確保等は重要課題であり、市との協定締結により、被災者の被災生活の負担を少しでも軽減することができる協定を締結できたことと喜んでいます。これからの多くの協定の締結に協力のもと、市民の安全・安心の実現に取り組んでまいります。

解決に向けた具体策と成果

2019年に他県へ被災地支援に赴いた活動を踏まえ、市と支援内容を協議し、系列施設を加えて再締結した。締結を機に設備・マニュアル等の整備を行い、危機管理体制を見直す機会になった。また社員の防災意識が高まり、救命救急の資格取得にもつながった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



49. 安心安全な学童送迎で子育て世代の就労を支援(株式会社林水泳教室)

取組の概要

子どもの予定に合わせた細やかな運行計画の策定と保護者への事前連絡で、送迎時のトラブルを解消した。

取組を始めた動機・課題

バスの乗り遅れや場所の間違えなど乗降時のトラブル発生時に保護者と連絡が取れず、適切な対応が出来ない状況の改善が問題になっていた。



解決に向けた具体策と成果

各学校の予定をリサーチして予定表を作成し、保護者へeメールで個別に送迎時間と場所を知らせる方式にした。スタッフ間の運行チェック体制を強化し、安全な運行に加え安心とホスピタリティをサービスの付加価値として提供可能となった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



50. 学童のアクティビティーをSDGsで楽しく学ぶ(株式会社林水泳教室)

取組の概要

学童のイベントアクティビティーに芋ほり、海ゴミアート制作などを取り入れる事で、子ども達がSDGsをわかりやすく身近に感じられるようにした。



取組を始めた動機・課題

子ども達へSDGsを説明しても、座学ではなかなか理解が進まず課題となっていた。小さい子どもでもSDGsを身近に感じられるよう、保育プログラムに組み込んでみたいと考えた。

解決に向けた具体策と成果

芋ほりでは食育に加え、地産地消で移動が少ない事でのCo2削減や、海ゴミからアートへの変化など、身近な事からSDGsを考え参加できることが伝えられた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



51. 外国人教師による子どもへの不適切な対応の解消(株式会社林水泳教室)

取組の概要

外国人教師への研修・ミーティングにより、子どもへのハラスメント・虐待など不適切と誤認されるケースの解消に取り組んだ。

取組を始めた動機・課題

先生自身は臆かしているつもりでも、子どもの感じ方によっては言葉遣いや、態度がハラスメントや虐待と取られかねない事案が起きており問題になっていた。



解決に向けた具体策と成果

外国人教師へハラスメント・虐待に関する教育研修を強化し、子どもへの対応の改善を図った。また、普段の子どもの様子や日常会話から、各家庭内での虐待等の問題を発見する事へも注意を払っている。

該当するSDGs目標
(3つまで)



52. 給水機の紙コップ廃止で紙使用量を削減(株式会社林水泳教室)

取組の概要

フィットネス施設の給水機での使い捨て紙コップの提供を廃止し、マイボトルの持ち込み利用に移行した。

取組を始めた動機・課題

利用者向けに設置している給水機で紙コップを提供していたが、使用済み紙コップのゴミ処理が問題になっていた。



解決に向けた具体策と成果

紙コップの設置を止め、利用者へはマイボトル、マイカップでの給水をお願いした。ゴミの削減に加え、経費の削減にもつながった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



その他

19. 学生食品ロスブランド「ユキハナ」 produce by 特定非営利活動法人フォーエヴァーグリーン

取組の概要

横浜市の老舗豆腐メーカーにて、食品販売に至らなかったおからを、法政大学の学生と商品化に挑戦。2年かけて、2022年8月より卸販売を開始。伊勢丹さんと商談中、地方百貨店様への納品が決まりました。食卓から世界を救う活動を展開しています。

ユキハナ 第一弾商品「鶏おから揚げ」



取組を始めた動機・課題

(特活)法人フォーエヴァーグリーンと豆腐メーカーで数年来商品開発に取り組んでいたところ、「食品ロスの勉強がしたい」と、ホームページを見た学生より連絡がありプロジェクト化。CO2を削減し温暖化防止に挑戦中。

解決に向けた具体策と成果

具体策：シンプルに売上を伸ばすこと。普通の企業と同様にマーケティングに力を入れること。商工会議所などに参加し、展示会などへの出展も検討中。

成果：学生の営業メールに+αして監督役としてNPOも参加し、実際の注文を獲得した点

該当するSDGs目標

(3つまで)



20. ウォーキング清掃（株式会社コア・エレクトロニックシステム）

取組の概要

従業員の健康増進を兼ね会社周辺道路をウォーキングしながら落ちているゴミを分別して拾うようにしました。



取組を始めた動機・課題

健康増進の為に毎年イベントを行ってきたなかで、地域貢献や環境（プラごみ海洋流出の上流阻止など）への取り組みとして始めました。
活動中の安全面確保とルート設定に悩みました。

解決に向けた具体策と成果

事前に周辺道路を歩いてみてルートを設定しました。
安全面を考慮して参加者にはビブスを配布し目立つようにしました。
周辺住民の方から感謝の言葉を掛けられる事もありました。

該当するSDGs目標
(3つまで)



21. PPA活用で太陽光発電電力を使う！（株式会社Jバイオフードリサイクル）

取組の概要

PPA（Power Purchase Agreement）モデルを採用し、自社食品リサイクル工場の屋根に、2020年2月より太陽光パネルを設置した。

発電した再エネ電力はPPA契約事業者から安価に購入が可能。発電した電力は全量工場内で利用した。20～21年度の総発電量は72,000kWhであった。



取組を始めた動機・課題

食品リサイクル事業以外でも脱炭素化における環境パフォーマンス向上をしたいと考えていたが、太陽光パネル設置・設備維持に関わるコストにおいて懸念点が多かったため、導入を検討した。

解決に向けた具体策と成果

PPAモデル採用により、PPA契約事業者への設備設置場所提供のみで、設備投資・メンテナンス不要で太陽光発電システムの導入が可能となった。

工場内使用電力のクリーンエネルギーの割合が増加し、22年度11月には神奈川県エネルギー地産地消推進事業者の認証内定をいただいた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



22. 工場見学者の受入体制を確立！（株式会社Jバイオフードリサイクル）

取組の概要

工場内見学ルート確保・プレゼンルーム建設・見学対応知識の社内共有により、見学者受け入れ体制を確立した。

リサイクルに携わる方々をはじめ、教育機関や地方自治体、外国政府機関関係者等多くの方々が来訪し、操業5年目で累積約4,000人の見学者を受け入れた



取組を始めた動機・課題

顧客への情報提供や、環境教育として食品リサイクルに関する知識・技能提供のために幅広く見学者を受け入れていたが、従来の見学では、別施設会議室までの移動に時間を有し、上記発信を効率的に行えないという課題があった。

解決に向けた具体策と成果

敷地内にプレゼンルームを建設することで、充実した工場見学の提供が可能になった。

さらに、プレゼンルームのバリアフリー化や、Zoomライセンス取得・三軸ジンバル導入によってリモート見学も可能となり、より多くの方々の受け入れを実現できた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



37. 木材の地産地消による環境保全（株式会社 市川屋）

取組の概要

かながわ県産木材の地産地消に根差した県内木材産業を担う一企業として、地域の環境保全と地域社会活性化に貢献する。木材の地産地消はCO2排出を要するウッドマイレージを抑制するほか、人工林の適切な伐採は森の成長を促し、豊かな自然環境を守ることも繋がる。



取組を始めた動機・課題

神奈川県は消費都市であり、他都道府県と比較すると林業が盛んとは言えない。そこで県内の木材を良質な木質材料として製造販売する企業活動を通し、国の木材自給率アップの目標に微力ながら貢献することができればと考えた。

解決に向けた具体策と成果

国交省の地域型住宅グリーン化事業では「湘南プレミアムハウス連絡協議会」として2012年からグループ登録をし、地域の森林組合や工務店、消費者を繋げ、県産材を活用する取り組みを続けている。

該当するSDGs目標

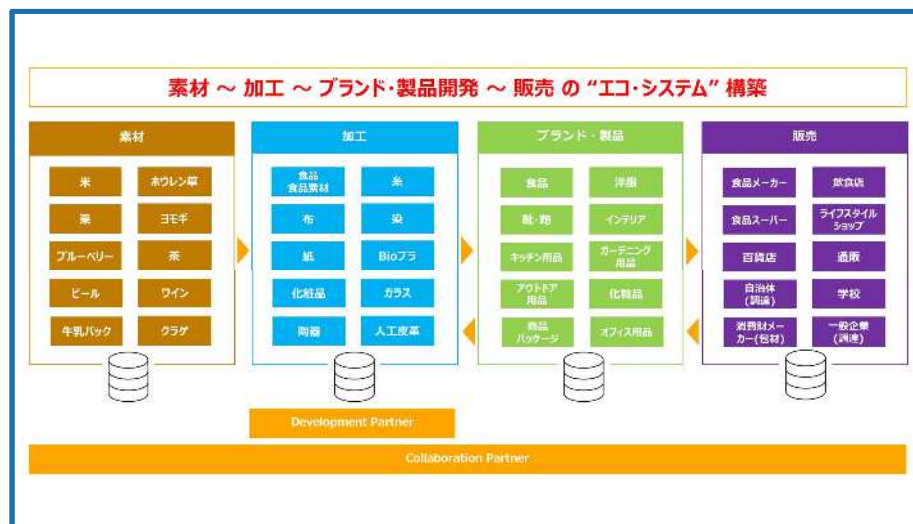
(3つまで)



53. UP FOOD PROJECT 食の問題解決に挑む共創プロジェクト（株式会社コル）

取組の概要

未・低利用素材の排出源から販売までつながるエコシステムを構築することで、未・低利用素材のアップサイクルを促進し、フードロス・廃棄物を減らす取り組み。



取組を始めた動機・課題

将来的な食料危機が懸念されるなか、570万トンもの食品ロスが発生しており、食品廃棄物全体の41%にあたる1055万トンが焼却・埋立されています。

このような状況を変え、日本の食を持続可能にアップデートするべく取り組みを始めました。

解決に向けた具体策と成果

【具体策】パートナー連携による未利用素材の情報収集、加工、商品開発、販路開拓

【成果】サラヤ、キュアテックスと当社による、規格外ビワのアップサイクル商品開発、販売

該当するSDGs目標
(3つまで)



54. POPで拡めるSDGs（さがみ農業協同組合）

取組の概要

SDGsの取組みについて利用者・役職員に広く周知するため、本店機能を有する2か所の事務所に持続可能な開発目標17項目の紹介および日本の現状と課題やJAグループが取組んでいる事例など記載したPOPを毎月作成し、目に留まりやすい場所（トイレの洗面所等）に掲示しています。



取組を始めた動機・課題

近年の報道等により世間でSDGsに対する関心が高まっているなか、他人事ではなく利用者・役職員一人一人が理解を深め、日々の生活で意識していく重要性を感じたため始めました。

課題として、一人一人の行動を促した結果、どの様に行動したかを把握することが困難であること。

解決に向けた具体策と成果

POPにより各自の行動を促すだけでなく、JA全体でフードドライブ等に取り組み、その成果を示すことで、少しの行動が大きな力になることを、利用者・役職員に呼びかけています。昨年度2回の呼びかけで、8月は133kg（341点）・1～2月には968.1kg（1,464点）の食品を回収しフードバンクかながわに寄贈できました。

該当するSDGs目標
（3つまで）

